

第3回茨城県総合計画審議会等における委員からの主な意見

意見要旨	該当箇所
<p><b>【計画の活用について】</b></p> <p><b>小祝委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画は県としてのポリシーを提示していくものだと思うが、県民側が主語になり、県民がどう計画を活用していくかというような、県民への呼びかけのような章があったらよいのではないかと。</li> <li>・具体的に言うと、重点の施策として儲かる農業を実現すると言ったときに、農業をビジネスとして取り組むことがアドバンテージになるという、県民への呼びかけがある章があったほうが、より自分事としてとらえてもらえるのではないかと。</li> </ul> <p><b>沼田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画には、我が事化にできるような部分が必要ではないかと。</li> </ul>	<p>はじめに</p> <p>「県民の皆さんによる計画の活用」を新たに記載。</p>
<p><b>【計画名称と第1部将来構想の構成】</b> 三村委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画表紙について、「いばらき革命」もしくは「挑戦する茨城」という簡潔な言葉で表紙を始めてはどうか。</li> <li>・また「茨城のポテンシャルについて」を最初に持ってきて、そこに合わせて時代の潮流をどう酌み取っていくかという構成にしたほうが、「挑戦する茨城」もしくは「いばらき革命」に合うのではないかと。</li> <li>・「いばらき革命」という言葉は、強い言葉だが打ち出しとしては非常にいいと思う。いばらき革命とするか、強過ぎるのであれば、「茨城チャレンジプラン（仮称）」ではなくて、「茨城県総合計画～挑戦する茨城～」ということではよいのではないかと。</li> </ul>	<p>第1部第1章</p> <p>時代の潮流を踏まえて、茨城の持つポテンシャルをどう活かしていくのかとの視点を加えることとし、「第2項 茨城のポテンシャルの発現」に変更するとともに、内容も修正。</p>
<p><b>【部局名の記載方法】</b> 仁衡委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画における政策・施策の主な取組を記載するページで、主な取組の右側に、部局名のみ書いているが、その意図や取組を主管する部ということが理解できるようにしてほしい。</li> <li>・一つの部だけが取り組むというイメージは良くない。他部との連携など、組織が有機的にやっているというイメージを持たせてはどうか。</li> </ul>	<p>第3部</p> <p>「主な担当部局」を項目名に記載。</p> <p>政策によっては、特定の部局が中心とならざるを得ず、原案のままとする。なお、取組を進めるうえでは、関連部局と連携していく。</p>
<p><b>【医療・福祉関係の政策における機器開発の記載】</b> 仁衡委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい安心安全」へのチャレンジで、地域医療、福祉、健康長寿といったあたりはすごく大事なテーマ。</li> <li>・保健福祉部的な観点のほかに、例えば産業戦略部が所管しているような機器開発などの産業政策の成果を記</li> </ul>	<p>I-2-(1)</p> <p>医療分野も含め、本県の特長を活かした産業育成・機器開発支援について、</p>

<p>載してはどうか。</p>	<p>「新しい豊かさ」に記載。 4つのチャレンジの中で、重複した記載は行わないこととしている。</p>
<p><b>【食・農・自然の王国】小祝委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点でも、これから未来に対しても、「食と農業、自然が豊かである国」というのは、非常に誇れるオール茨城で自慢できるポイント。</li> <li>・4つのチャレンジに当てはめてみて作ったのが、資料（当日の小祝委員提出資料）。</li> <li>・PR戦略を考えると、茨城県といえばどういう地域なのかと言われたときには、やはり食が豊かで、農業がしっかりしていて、自然も豊かであるということが、茨城県を示すキーワードだと思う。</li> <li>・一番ポイントだと思っているのは、IN-OUTが連動した海外輸出とPR戦略、あとインバウンド、これは海外に販路を求めて、例えば今、茨城県で重視している梨やメロン、そういった果実を海外輸出・PRしていく。フルーツの収穫体験、フードツーリズム、アグリツーリズムのようなものを一致させてやっていくことで、PRを非常に効率的に回していけるのではないかな。</li> <li>・最先端の技術と、その対極にある食とか農とか自然とか人間の根源であるようなもの、人間の原風景みたいなものが求められるのは必然だと思うので、そういったものをハイブリッドでやれる県というのは、オンリーワンの価値が出せるのではないかな。</li> </ul>	<p>I-2-(2)② 食と農と科学技術などの強みを活かした取組について記載。</p> <p>IV 10年後の姿 「食の王国」のイメージの浸透を記載。</p> <p>IV-17-(1)② 農林水産物の更なる輸出について記載。</p> <p>※本県の特長を活かした取組を進めていくうえでの参考にさせていただく。</p>
<p><b>【女性活躍（女性幹部の登用、男性意識改革）】中村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹部として女性が活躍している分野は、介護など女性の多い分野に限られており、県内の大手企業であっても、女性の幹部職員の起用割合はかなり低い。</li> <li>・また、様々な会議に出る中で、女性の活躍には、採用する側の働き方を改革していくこと、男性がもっと理解を示すことが大事という意見があった。</li> </ul>	<p>I-4-(2)①② 職業生活における女性の活躍推進にかかる取組や女性リーダーの育成について記載。</p>
<p><b>【女性リーダーの育成】益子委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハーモニーフライト事業の研修員に対して、研修後も報告書作成や発表だけでなく、フォローがあると、更なる活躍につながると思う。全部県にお任せではないと思うが、起業したい人たちが、知識やノウハウを得られるような場をつくることで、その後の活躍につながるのではないかな。</li> </ul>	<p>I-4-(2)②⑤ 女性人材や女性リーダーの育成や女性の起業支援について記載。</p>
<p><b>【女性活躍と男性の意識改革】益子委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の社会進出には、男性の家事・育児参画とセットで考えなくてはいけない。</li> </ul>	<p>I-4-(2)③ 育児休暇取得について追記。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性リーダーの育成には、県でも、育児やイクメンなど意識改革というか、男性の参加を働きかけるべき。</li> <li>・外国では、パパ・クォータ制が導入されているところもある。育児休暇が取りづらい会社もある中で、男性に育児休暇を割り当てるパパ・クォータ制を導入することも検討してはどうか。</li> </ul>	
<p><b>【仕事と育児の両方を気軽に相談できる窓口】三浦委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が活躍するというのは、出産後に働き続けられるかが、1つ大きなハードルだと思う。</li> <li>・働くことや育児については、それぞれ相談窓口はあると思うが、要素として、働くことと育児の両立、あるいは気軽に相談できる窓口とか、少し気軽に相談できる場所をつくるという文言を入れてほしい。</li> </ul>	<p>I-4-(2)④ 気軽に相談できる相談窓口について追記。</p>
<p><b>【診療科間の医師の偏在】</b> <b>中山委員（吉田会長経由）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の問題は、医師の数よりも、地域と診療科の偏在ではないか。</li> <li>・地域の偏在については、義務年限を超えた人に、地域への愛着を持たせること、大学医局の協力などによって総合的に取り組む必要があるが、もっと大事なものは、診療科の偏在。</li> <li>・最近では内科や外科ではなく、皮膚科や眼科などの科を志望する傾向がある。産婦人科など非常に大変な科では、その大変さから若い医師の志望が少ないのではないか。</li> <li>・大きな病院に産婦人科や小児科が整備され、医師がそこで活躍したり、やりがいを感じていたりする姿を若い医師が見て、モデルとして志望するような形になると非常に良いのではないか。</li> <li>・例えば「いばらき医療大使」が、産婦人科などの、アピールする側の医師を連れてきてくれるといい。</li> </ul> <p><b>仁衡委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師不足について、地域の偏在、診療科の偏在を解消する取組について、具体的なものを記載してほしい。</li> <li>・いばらき医療大使のリクルートは必要だと思うし、大病院に産婦人科や小児科があることも大事だが、個人でも、バイタリティーがあるすばらしい産婦人科医がいる。そういった医師をどんどんフィーチャーして、そういう方を目指すような子どもたちが医療コースの中から出てくるような取組につながるとよい。</li> </ul>	<p>II-6-(1)④ 修学生に対して医師が不足する診療科への理解を深める機会を創出していく取組について追記。</p>
<p><b>【地域、人と人とのネットワーク】中村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティ、地域の活動とか、人と人とのネットワークが、全体的に弱い。</li> <li>・政策7「政策2 地域包括ケアシステム」では、地域の中で地域を支えられる、制度だけに頼らない地域の福祉資源をどう創生していくかを記載してほしい。</li> <li>・例えば地域のボランティア的な活動を高齢者や地域の人たちが一緒になって、認知症になっても共にその地</li> </ul>	<p>II-9-(5)①② 「地域力を高めるコミュニティづくり」と施策名を変更。 防災、防犯、子どもや高齢者の見守りなど、様々な分野における地域コミ</p>

<p>域で活動がおこせるだとか、そういったことが地域包括ケアシステムの根幹であり、今の記述だと総合支援事業やいわゆる介護保険事業など事業だけに偏っている印象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の住民が集まって、地域課題の解決に向けて支え合う体制づくりが進んできている。</li> <li>・防災についても、行政が作った仕組みを住民が知っているか、それをどう活用するかが大事。</li> <li>・本当に支え合えるような防災づくりというのは、制度や計画ではなく、地域の住民、県民が一緒になって参加し、支えることが重要。</li> </ul>	<p>ユニティの形成支援について追記。 NPO 法人の取組支援にかかる取組を新たに記載。 <b>I-2-(3)④</b> 地域商業の再活性化について追記。</p>
<p><b>【農林水産物の放射性物質検査の公表方法】 仁衡委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産物の放射性物質検査の継続実施や消費者への周知はとても大事であり、実際的な取組を打ち出してはどうか。</li> <li>・公表と言っても、県のホームページで見られますではなくて、茨城県が出荷したものは、ほかの県と違って全部QRコードがついていて、それをピッとやれば測定した結果が全部出るとか、そういった先進的な取組をやってはどうか。</li> </ul>	<p><b>II-10-(5)④</b> 消費者に対しては、県のホームページへの掲載のほか、茨城新聞への掲載、NHKデジタル放送（茨城県内のお知らせ）で公開し、1週間毎に更新している。今後、これまでの公開方法に加え、他部局と連携し、各種イベント等の機会に、県産農林水産物の認知度向上と合わせて、安全・安心についてもPRしていく。</p>
<p><b>【地域におけるチャレンジときっかけづくり】 中村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県では女性・若者の活躍チャレンジ支援事業をやっており、審査員を務めているが、高校生や大学生がすごくいいアイデアを出している。</li> <li>・まちをよくするための活動や高齢者を支えるためのボランティアなど、企画がすごく出てきていて、年々盛り上がってきていると感じている。</li> <li>・ただ、それが発展したときに、ボランティアの域に留まるものと、次のビジネスや商業の活性化、地域産業の活性化につなげていく段階にある団体もいる。</li> <li>・そのため、県から、それを次へ動かすための仕掛けづくりの企画があるとよい。動かすためのきっかけを作ってほしい。また、高校生とか大学生と一緒に知事が話をするのもすごくいい刺激になるかと思う。</li> </ul>	<p><b>III-11-(7)</b> 若者団体が自ら企画・提案した地域の課題解決などの取組に対して助成金を交付するとともに、サポーターによる助言やフォロー等を行うことにより、若者団体が活動のノウハウを習得し、将来的に自立して、行動できるように支援する、若者活動応援事業について記載。</p>
<p><b>【シングルマザーへの支援】 有賀委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が輝く環境づくりという方針自体はすばらしいものだと思うが、最近、女性の中でも、かなり格差があ</li> </ul>	<p><b>III-13-(2)④, (5), (6)</b> シングルマザーに限らず、生活困窮</p>

<p>るような話があり、例えばシングルマザーの方が困窮している話もあるので、そういったものへの配慮が見えるような記述があるとよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事、育児、家事を全部一人でこなす必要がある状況であり、どのような支援が望ましいのかは難しいが、例えば休みを取りやすくとかの支援があるとよい。</li> </ul>	<p>世帯への支援について記載。</p> <p><b>Ⅲ－１３－（２）③</b></p> <p>育児支援として、「ファミリーサポートセンター」「病児・病後児保育」について追記。</p>
<p><b>【ICT教育について】川井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンやパソコンを使いこなせる人がいない印象がある。</li> <li>・ICT化が進む中で、災害情報などITを活用した情報入手が迅速に行えない可能性もあるのではないか。</li> <li>・高齢者の方も含め、県民全体がテクノロジーを使いこなせるような県民像になるとよい。（県民へのIT教育など）</li> </ul>	<p><b>Ⅲ－１４－（１）③</b></p> <p>高齢者を含む、すべての県民に対して、ICT学習を推進する旨記載。</p> <p><b>Ⅳ－２０－（３）⑥</b></p> <p>デジタルデバイドの解消について、記載。</p>
<p><b>【プロスポーツクラブの活用】沼田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県が取組を進めるうえで、プロスポーツクラブの力を使ってほしい。</li> </ul>	<p><b>Ⅲ－１４－（３）①</b></p> <p>プロスポーツクラブと地元自治体、関係団体等との連携について記載。</p> <p><b>Ⅳ－２０－（４）④</b></p> <p>プロスポーツクラブとの連携・活用した地域の活性化について記載。</p>
<p><b>【外国人をサポートする体制】仁衡委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が農業実習生などで多く来ている中、地域とのやりとりが少ないと孤立を深めていって、最後には犯罪とかにつながりかねないという部分もあるので、お祭りなども含め、交流を生む取組もあるとよい。</li> </ul>	<p><b>Ⅲ－１５－（１）③</b></p> <p>外国人と地域との交流について追記。</p>
<p><b>【「茨城シリコンバレー構想」の名称について】仁衡委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政策１７「施策３ 茨城シリコンバレー構想」とあるが、「茨城」、「シリコンバレー」は共に地域名であり、地域名、地域名、構想というのはちょっと乱暴ではないか。</li> <li>・ベンチャーがどんどん立ち上がる姿やイメージしていることを具体的に書いたほうが良いのではないか。</li> </ul>	<p><b>Ⅳ－１７－（３）</b></p> <p>「シリコンバレー」は、カリフォルニア州北部のIT関連企業やスタートアップなどが集積する地域一帯を示す通称であり、こうした集積地を茨城に作るという構想を施策名としている。</p>

<p><b>【PDCA を意識した数値目標】 加藤委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標はPDCAに落とすことが大事。</li> <li>・県の努力や施策がうまく実行されたことが数値に反映されることが大切であり、数値一つ一つが良い悪いではなくて、選ぶときには、目標数値を押し上げるには、どういう要素に分解され、県の施策による努力要素があるのかどうか、それを検証することができる数値なのかというところが大切。</li> <li>・指標の要因を分解したときに、要因が多すぎると、努力の成果が見えにくくなる。</li> </ul>	<p><b>指標の設定</b></p> <p>今回の指標設定にあたっては、チャレンジを代表する指標（チャレンジ指標）と、それらを着実に推し進めることを意識して、施策レベルの指標（主要指標）を設定。このため、チャレンジ指標の検証と併せて、主要指標の動向もしっかりと検証することにより、PDCAを着実に展開できるものと考えている。</p>
<p><b>【「いばらき革命」について】</b></p> <p><b>三浦委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会委員によるメーリングリストにおいて、「いばらき革命」というキャッチフレーズが議論され、「革命」という強い言葉で、役所として提示するには強めのとんがった言葉ではあるが、非常にインパクトのある、浸透しやすい言葉ではないかと思っている。</li> <li>・あわせて、吉田会長から、県民意識、県民の心構えという文書をいただき、それをキャッチコピー化した。</li> </ul> <p><b>仁衡委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いばらき革命」は良いと思う。</li> <li>・審議会からのメッセージとして、総合計画とは切り離してもいいのではないか。</li> <li>・県の計画なので、県民の心構えみたいなものを上から押しつけるみたいなイメージはよくないのではないか。</li> <li>・我々審議会として、「こんな心構えでいきたいものですね」というメッセージとして出してはどうか。</li> <li>・例えば、総合計画の後書きのような場所など、何か取り扱いを考えられないか。</li> </ul> <p><b>中村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いばらき革命」と「日本一幸せな県の実現」、この表現はすごくすてきだと思う。</li> <li>・心構えについて、思いとして伝えたいメッセージではあるが、PDCAでチェックしていく総合計画ということ考えると、努めるとか、心がけるというのは、どうしても指標にできないものになってしまうので、計画として位置付けるのはどうか。</li> </ul>	<p>※総合計画審議会からのメッセージとして、心構えの内容を第2部のコラムに掲載予定。</p>